



編集・発行 三鷹市教育委員会 東京都三鷹市新川 6-35-28 (教育センター暫定施設)

# MITAKA Education Board みたかの教育

紙面から2面/3学園の開園10周年記念式典/コミュニティ・スクール  
委員会の取り組み/三鷹市川上郷自然の村 ほか

三鷹市教育委員会 ☎ 0422-45-1151

総務課(3213)・学務課(3233)・指導課(3242)・図書館 0422-43-9151 ( )内は内線番号

平成31年 2019.1.20

## 知・徳・体の調和のとれた子どもを育てるために 市立小・中学校で特色ある 教育活動を展開しています

市立小・中学校では、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むために、東京都委託事業等を活用しながら特色ある教育活動や授業研究等を展開しています。研究推進校などにおける実践や研究の成果は、研究発表会や教員研修などで他校と共有し、人間力と社会力を兼ね備えた三鷹の子どもを育てていきます。

☞指導課☎内線 3246

### 東三鷹学園 第一小学校 プログラミング教育推進校

第一小学校では、平成30・31年度に東京都教育委員会からプログラミング教育推進校として指定を受け、プログラミング教育の研究と実践に取り組んでいます。

1年目の今年度は、プログラミング教育について基本的な考え方を教員同士で学び合う基礎研究と、論理的な問題解決の手順を学習する授業の実践を行っています。授業後は、各学年で実践内容をまとめて教員研修の場で発表しており、教科間・学年間をまたいだ研究となっています。

今後は、コンピュータでプログラミングソフトを使う授業なども積極的に取り入れる予定で、そのためのカリキュラムの見直しや、さまざまな授業の実践と基礎研究を進めていきます。



計算の手順をプログラミングしながら考え、まとめる活動

### 鷹南学園 第五中学校 道徳教育推進拠点校

中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」が始まります。第五中学校は、平成28年度から東京都道徳教育推進拠点校として、新学習指導要領を踏まえた「考え、議論する」道徳の推進に向けた指導や評価の研究をしています。

研究の中心の1点目は、一人ひとりが多面的・多角的に捉え、考え、各々の共通点や相違点について議論を深められる発問(子どもたちに対する問いかけ)についての実践的な研究です。2点目は、その実践を通じて生徒が気付き、考えたことなどを保護者・生徒と共有するとともに、生徒の変化や成長について、数値ではなく記述により客観的に評価する評価方法などを研究し、さらに質の高い授業を目指していくことです。平成31年2月20日(水)に研究発表会を開催しますので、ぜひご参加ください。



発問に対しグループで議論の様子

### 三鷹中央学園 第四中学校 パラリンピック競技応援校

第四中学校は、東京都教育委員会から、昨年度は「『夢・未来』プロジェクト実施校」、今年度は「パラリンピック競技応援校」の指定を受け、オリンピック・パラリンピック教育に力を入れています。今年度は10月に、2名のパラリンピアンが自ら運転する車で10台の競技用車いすを運んで来校し、3日間にわたり全校で車いすバスケットボールの体験授業を行いました。

パラリンピアンとのデモンストレーションでは、世界レベルの車いすさばきに、生徒から感嘆の声が上がりました。「障がいがあっても同じ人間」「私たちは弱い、でも諦めなかった。困ったときには工夫して乗り越えた。それだけ」など、心に響くお話を聞くことができ、パラリンピックの精神である「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ！」の言葉を体感できた貴重な体験でした。



体育館で車いすバスケットボール体験

### おおさわ学園CS委員会が 文部科学大臣表彰を受賞

平成30年12月3日、おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会が、「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。この表彰は、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動のうち、他の模範と認められるものに対して行われるものです。同委員会は、地域で個別に行われてきたさまざまな活動と学校をつなぐことで地域の横のつながりをつくり、学校教育への地域の協力を体制を広げました。こうした活動が評価され、今回の受賞となりました。



### 文部科学大臣教育者表彰受賞

平成30年11月30日、三鷹の森学園三鷹市立高山小学校 柳瀬 泰校長が、学校教育の振興において特に顕著な功績が認められ、文部科学大臣教育者表彰を受賞しました。

☎総務課☎内線 3215

### 教育長の再任



教育委員会 教育長  
たかべ あきお  
高部 明夫

平成30年10月1日付けで三鷹市教育委員会教育長に再任されました。高部教育長は3期目で、任期は3年間です。

【略歴】昭和52年4月三鷹市就職。総務部職員課長、教育委員会教育部調整担当部長兼総務課長、総務部調整担当部長兼政策法務課長、市民部調整担当部長兼市民課長、市民部長、教育委員会教育部長を歴任し、平成24年10月から三鷹市教育委員会教育長を務める。

### 子どもたちと向かい合う時間を より確保するために



教育委員会 委員  
ふじみち まさひろ  
富士道 正尋

昨年10月、教育委員に就任しました富士道正尋と申します。私は、中学校教員として教職をスタートした後、区市教育委員会や東京都教育庁などの教育行政での勤務を経て、校長として学校現場に戻り、昨年3月に定年退職いたしました。これまでの学校と教育行政、それぞれの経験を活かし教育委員としての職責を果たしてまいりたいと思います。

さて、文部科学省が平成28年度に行った「教員勤務実態調査」において、1週間の総勤務時間が過労死ラインと言われている60時間を超す教員の割合が小学校で33.4%、中学校で57.7%という結果が判明しました。中学校では、仮に総勤務時間を60時間とすれば、月曜日から金曜日まで平均4時間の残業をこなし、さらに土曜日あるいは日曜日に出勤している教員が約6割いるということになります。

国の中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」では、教員のこれまでの働き方を見直し、教員自身の人間性や創造力を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、約2年にわたり幅広く議論を重ねられてきました。今月の末には、文部科学大臣に対して答申される運びになっています。私も委員の一人として学校現場における現状を何度も訴えてまいりました。

これまで、教員が行うことが当たり前とされてきた登下校の見守りや学校給食費の管理などの業務を見直すことや、学校内に校務支援を行うスタッフを導入することなど、幅広く提言が盛り込まれていくこととなります。もちろん、国に対しては、教員定数の更なる改善や様々な制度の見直しなどにも言及しています。子どものことは、すべて学校が請け負うべきだという考え方も社会全体で見直していかなければならない時期に来ていると思います。

今後、三鷹の学校における働き方改革がさらに加速するよう教育委員として尽力してまいります。どうぞ、よろしくお願いたします。

富士道正尋氏は、平成30年10月1日付けで三鷹市教育委員会委員に任命されました。任期は4年間です。【略歴】全日本中学校長会事務局長、中央教育審議会初等中等教育分科会学校における働き方改革特別部会委員、昭和55年から公立中学校教諭として勤務。東京都教育庁、都内教育委員会等での勤務を経て、平成23年4月から平成30年3月まで世田谷区立太子堂中学校校長、小金井市立南中学校校長を歴任する。

10年の歩みを未来へつなげる

3学園の10周年を合同で祝いました



3学園の「児童・生徒宣言」

平成20年4月にコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校として開園した連雀学園、東三鷹学園、おおさわ学園が合同で、平成30年11月17日、三鷹市公会堂光のホールにて開園10周年記念式典を開催しました。式典には、多くの来賓の皆様をお迎えし、各学園のコミュニティ・スクール委員、児童・生徒代表、開園当初から現在までの地域の協力者の皆様、市立学校の教員など505人が参加しました。

児童・生徒による学園の未来に向けた力強い宣言、「これまでの10年間をふりかえり、これからの10年間を創造する」というテーマでの各学園からのプレゼンテーション、京都産業大学現代社会学部の西川信廣教授による記念講演「三鷹市の『コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育』の取り組みのさらなる発展を期待して」が行われ、参加者がともに、各学園のこれまでの取り組みを共有し、三鷹の教育の未来について考える有意義な機会となりました。  
⇒指導課 ☎ 内線 3245

各学園の  
コミュニティ・スクール委員会の  
取り組みをご紹介します

前号(2018年9月16日発行号)では、にしみたか学園、三鷹中央学園、鷹南学園のコミュニティ・スクール委員会の取り組みを紹介しました。今号は、連雀学園、三鷹の森学園、東三鷹学園、おおさわ学園を紹介します。  
⇒指導課 ☎ 内線 3245

コミュニティ・スクールは、学校・保護者・地域が連携し、ともに学校教育に参画する仕組みです。三鷹市では、小・中一貫の7つの学園ごとに、PTA、地域の団体や協力者、教員等で構成する「コミュニティ・スクール委員会」(CS委員会)が設置されています。

連雀学園 [第四小・第六小・南浦小・第一中]

ジブリ美術館や井の頭自然文化園とのコラボ企画を実現!

連雀学園CS委員会サポート部では、三鷹の森ジブリ美術館の近隣という地域のメリットを生かして、「ジブリの森のレンズ展」(平成25年度)、「ジブリお泊り会」(平成27年度)、「ジブリコンサート」(平成28年度)のコラボ企画を実施してきました。今年度は井の頭自然文化園の協力も得て、「ジブリと井の頭公園で虫スケッチ会」を開催しました。はじめにジブリ美術館で映画「毛虫のボコ」を鑑賞後、井の頭自然文化園で実際にいろいろな虫を触っ



これから始まる映画にワクワク!



真剣にスケッチに取り組む子どもたち

て捕まえ、資料館に持ち帰ってスケッチに挑戦。文化園の職員さんから「小さいものを大きく描こう」などのアドバイスをいただき、小学校低学年の児童から中学校美術部の生徒まで、それぞれの視点から真剣に取り組みました。学校も学年も違う参加者の中で初めは戸惑っていた子どもたちも、上級生のリードで、絵を描く頃にはすっかり打ち解けていました。

三鷹の森学園 [第五小・高山小・第三中]

地域の力を子どもたちの学びの充実につなげる仕組み

三鷹の森学園では、CS委員会が昨年度から準備を進めてきた「学園サポーター」事業の活動が、今年度4月から始まりました。平成30年12月現在、サポーターの登録者数104名、延べ参加者数200名、稼働率は46%です。稼働率を90%以上にすることが今年度の目標です。

この事業を立ち上げるに当たり心掛けたことは「シンプルさ」です。「学校からメールで依頼」→「コーディネーター」→「サポーター」→「サポーターからの返信」、この4ステップで当日のサポーターが確定できます。学校がサポーターの協力を依頼したい時は、必要事項をメールで送るだけで、全てコーディネーターが調整するため、教員の負担がなく継続した運営が可能なシステムとなっています。日程が迫っている依頼に対しても、多くの場合で対応することができています。今後も「学園サポーター」の登録を増やすとともに、新たなコーディネーターも募集し、子どもたちの学びを支えていきます。



校外学習の引率をするサポーター

地域ぐるみで学校教育を支援

東三鷹学園 [第一小・北野小・第六中]

「自信をもち、イキイキと生きる、東三鷹っ子」を目指して

東三鷹学園CS委員会では、サポート隊を中心とした授業支援など学校を支援する活動とともに、ここ数年の大きな取り組みの1つとして、家庭・地域・学校がともに「自信をもち、イキイキと生きる、東三鷹っ子」を育てることを目指す「東三鷹学園スタンダード」の活用を推進しています。東三鷹学園では、子どもたちの教育における家庭・地域・学校それぞれの役割を明確にしており、「東三鷹学園スタンダード」は、子どもたち自身が目標シートに自らの目標を記入し、保護者は子どもの目標に対して家庭でサポートすることを記入して、家族が日常目にする場所に貼るものです。その活用方法をCS委員が各学校の保護者会で説明するなど、取り組みを多くの家庭に広げようとしています。

CS委員会では、このほかにも、子どもたちが各種検定にチャレンジするための支援などを行っており、昨年度からは小学生を対象とした漢字検定の実施をサポートしています。今後も、家庭・地域・学校が一体となって、子どもたちの健やかな成長につながる取り組みを続けていきます。



「東三鷹学園スタンダード」

おおさわ学園 [大沢台小・羽沢小・第七中]

地域・家庭のチカラを教育活動に活かす

おおさわ学園CS委員会では、開園当初より、学園全校で統一した学習支援組織「サポート隊」が中心となって学校教育を支援しています。また、ゲストティーチャーなどの地域人材を発掘し、学校につないでいます。

「サポート隊」による学習支援活動は、算数などの授業サポートや行事の引率、部活動の見守りなど多岐に渡り、昨年度は約30種類の募集に対し、保護者や地域の方の延べ2,963名の参加をいただきました。各学校にサポート事務局を設置し、参加協力者の募集や調整を行っていますが、今年度は学習ボランティア募集システムを活用して事務局機能を強化しました。地域人材の発掘については、昨年度、学校の先生のニーズの捉え直しと新たな人材発掘に取り組み、今年度の学校支援活動に活かしています。また、今年度はコミュニティ・スクール推進員を配置し、漢字検定・数学検定や、放課後の学習の場「みたか地域未来塾」のコーディネートを行い、子どもたちの自主的な学びを支えています。



野川での校外学習のサポート

教育振興を目的とした寄付金を受け付けています

三鷹市では、教育振興を目的とした寄付金を募集しています。みなさんからいただいた大切な寄付金は、小・中学校のクラブ活動や部活動を含め、子どもたちの教育環境を充実させるための備品購入に充てるなど、寄付をしていただく方のご意思にそって活用させていただきます。

寄付のお申し込みは、窓口(市役所本庁舎3階 企画経営課)や郵送のほか、市ホームページの特設サイト([http://www.city.mitaka.tokyo.jp/furusato\\_nouzei/](http://www.city.mitaka.tokyo.jp/furusato_nouzei/))からも簡単に行うことができます。

なお、市への寄付金は、所得税や住民税の控除対象になります。三鷹の教育へのご支援をお待ちしております。  
⇒総務課 ☎ 内線 3215

旅行・  
合宿は

三鷹市川上郷自然の村へ!

三鷹市川上郷自然の村は、高原野菜で有名な長野県川上村にある校外学習施設です。市立小・中学校の自然教室で使用しない日は、保養施設として広く一般の方にご利用いただいております。スキー、スノーボード、星空観望や温泉めぐりなど、冬ならではのレクリエーションを満喫できます。(宿泊料金は大人3,700円(1泊2食付)から)  
⇒総務課 ☎ 内線 3213

三鷹市川上郷自然の村  
〒384-1406 長野県南佐久郡川上村大字原591番362  
☎0267-97-3206 FAX0267-97-3207 HP<http://www.sizennomura.jp/>